

## 年 頭 挨 拶

会 長 田 中 稔 一



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれては、心も新たに新春を迎えられたことと思います。平成29年の年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、時代の変革を予兆する様な出来事が様々起きた一年ではなかったかと感じます。グローバル化によるフロンティアの喪失に加え、ここ数年の米・欧・日など先進国の経済成長の低迷と低金利により、資本主義の行き詰まりが顕現した一年でもありました。資本主義の副作用としての貧富の格差は、デジタル社会の進化により拡大・加速し、世界的な社会不安の種となって参りました。景気低迷と共に世界的にポピュリズム・保護主義・排外主義が頭を擡げ、「Gゼロ」世界への懸念の深刻化と相まって、大きな社会不安となっています。大方の予想を覆した、昨年の英国のEU離脱投票と米国の大統領選挙は、この証左となりました。主要国が保護主義・排外主義からブロック経済に傾斜しモンロー主義が復活したかの様な現況は、第二次世界大戦前夜に酷似すると心配する人もいます。一昨年12ヶ国が合意したTPPの発効にも不透明感が漂い、その他のEPA・FTA・FTAAP等の自由貿易連携交渉の行方も予断を許さない状況になってきました。

しかし一方で、ITの普及もあり、グローバル化の流れは止められず、過去の経験から賢く学んで各国が協調すれば、こうした閉塞感から脱出できる、と言う人もいます。真の全体繁栄のためにどうすべきか、知恵と弛まぬ努力を結集することにより、解決の道が拓けるのではないかと思います。時代の岐路に立ち、今こそ人類がその英知を活かして新たな社会システムを築く、その時が来たのではないのでしょうか。

現在、IoT・ビッグデータ・AI・ロボット等を駆使する「第四次産業革命」や「Society 5.0」の実現に向けた社会的機運が急速に高まっています。プロ棋士に完勝したアルファ碁、クイズ番組で優勝したワトソン、ソフトバンクのペッパーなど、機械学習（ディープラーニング等）により自己改良を重ねるAIやロボットの進化は、驚異的な速さで進んでいます。これを活かした様々な人類への貢献が期待されています。食糧不足・エネルギー不足・地球環境汚染などの人類全体の問題を解決する切り札としても期待される、進化したAI・ロボット産業が胎動を始めました。それと同時に、著名人が警鐘を鳴らしている様に、AIが人間の頭脳を超える「シンギュラリティの脅威」やAIの悪用の危険性についても、広く公論にあがり始めました。AIが、人類の脅威ではなく、人間と共存して人間の知能を強化し人類に幸福をもたらす方向に導くために、世界共通の倫理規範を構築することが急務となってきました。

## 本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

「第四次産業革命」や「Society 5.0」の実現に向け、知的財産としての新たな課題についても、議論が本格化して参りました。AI進化のベースとなる、機械学習に必要な「学習用データセット」や「学習済みモデル (pre-trained models)」の生成と利活用に関わる法的取扱いをどうするか。一体知的財産権として守るべきか否かも含め、各国の思惑も絡み複雑ですが、喫緊の課題として浮上してきました。AIが生み出す「創作」物に一体知的財産の権利を認めるか否かについても、真剣に議論され始めました。

他方、環境面でも、昨年9月に、世界の温暖化ガスの40%を排出する米国と中国がパリ協定を批准し、11月に発効しました。その後、モロッコでCOP22が開催され、温暖化対策が大きく前進しました。今後、米国の新政権の対応など紆余曲折はあると思われませんが、温暖化対策は深刻な人類全体の問題であり、最終的には先進国から途上国への環境資金支援や環境技術移転が実行されることになると思われれます。当協会は、従来からWIPOと連携し、“環境技術移転における知財制度の在り方”のシンポジウムを開催するなど、積極的に活動してきました。今後この面でも益々当協会の貢献が期待される所です。

こうした社会的変革の中で、当協会は、今年度、21の専門委員会と7つの政策プロジェクトの活動で顕著な成果を挙げるとともに、注力している知財人材育成では約14,000名の研修生受け入れを目指し活動して参りました。会員各社の知的財産活動と人材育成に大きく貢献できているものと思います。

またさる6月3日には、経団連・WIPOとの共催で、43もの企業・団体から80名強の経営層の方々にご参加頂いて「企業経営者向けグローバルビジネスシンポジウム」を開催し、シンポジウム宣言「日本企業の経営者は、グローバル産業競争において、知的財産を最も効果的に使うことができるよう行動する」を宣言しました。同日にWIPOと当協会の間で、今後も両者が持続的かつ緊密に連携していく旨のMOUも締結しました。

更に一昨年加盟した経団連には、今年度は6委員会に参画し、新しい展開の準備が整いました。

これらは偏に事務局及び会員各社の皆さんの懸命な努力の賜物と、厚く感謝申し上げます。

今後更なる革新的イノベーションが期待される中、既存の知財制度運用の限界を意識した“次世代知財システムの構築”、“知財マネジメントの推進”、“日本紛争システムの変更”、“知財人材の育成”など重要テーマに引き続き取り組むとともに、「第4次産業革命に対応した知財戦略構築」に向けた活動を活発化させて参ります。

今年の(第16回)JIPA知財シンポジウムでは、「激動のビジネス革新！第4次産業革命と知財」をテーマに、タイムリーで積極的な情報発信と討議を行います。このシンポジウムを通して、会員各社の知財戦略推進に大きく貢献できることを期待しています。

時代の変革の年にあたり、革新的なイノベーションと新たな知財戦略で最大の価値を生み出すために、会員各社の皆さんと共に果敢に挑戦して参りたいと思います。

Creating IP Vision for the World!

本年が会員各社にとって新たな飛躍と繁栄の年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。